

3. Iwata & Kusaka: *Coniferae Japonicae Illustratae*, (see fig. 74 et 81) p. 196 (1952).
4. Kusaka: *Transactions of the 62nd Meeting of Japanese Forestry Society*. p: 1-2. fig. 2 (1953).

□Léon Croizat: *Manual of phytogeography* (pp. 690, pl. map. 105. Junk 発行 the Hague 1952)

An account of plant dispersal throughout the world という副題がある。この書は世界的規模における植物分布の道すじを主題にした論文ともいべき性質のものである。即ち顕花植物が出現した場所にはふれないが、現在の顕花植物の直接の祖先 (modern angiospermy) はジュラ紀末から白堊紀の初頭に3つの門 (gate of angiospermy) から分布をはじめた。アフリカ南部、西ポリネシア、マジェラニアがこれで、第1が特に重要な役目を演じた。これから発した architype の流れは地球上に一定の道 (truck) を劃している。この道をとる genorheitra の流れは偶発的な陸橋などによるものではなくて、秩序的、反覆的になされたが、この書では事実をのべるだけで解釈は下されていない。流れ更に第二次の分化の中心を各地域に作り、そこから現在の分布地に達した。第2の分化期は白堊紀末から第三紀の初頭の地球表面変動期である。氏は holoarctic 分布の存在は神話であるとし、すべてを南方起源に帰している。老大なデータと文献をあつかつていて、教えられることが多いが、なおデータの不足と取扱い方のあらつばさはまぬかれない。氏はハーバード大学からヴェネズエラのカラカス博物館に転じ、アンデスの麓、オリノコ河畔を逍遙しつつ、第2著動物分布論の稿を進めている由。(津山 尙)

### 正 誤 表 Errata for J.J.B. 29 nos. 1, 2 & 3

No.	頁 (page) 一行 (line)	誤 (for)	正 (read)
1	11— 6 \	of	delete "of", of をとる
	20 欄外 (foot note)	aud	and
	26— 9	3	2
	27— 5	tne	the
	//—35	auther	author
	28—15	もの言われる	ものと言われる
	32—21	本年	昨年
2	48—22	一昨夏	昨夏
3	93—lowest	下記を加える	add," Sept. 1950—Typus in Herb. Agr. Coll. Matsuyama)